

製造業女子家族従業者の生活実態 に関する調査

一 結 果 報 告 書 一

昭 和 4 5 年

労 働 省 婦 人 少 年 局

は し が き

近年、農林業家族従業者の減少と対照的に、非農林家族従業者（主として女子）は漸増し、とくに小零細企業においては、人手不足が深刻なため、家族の負担が重くなつていとみられる。

労働省婦人少年局では、家族労働者の実態をは握し、その福祉対策に資するため、今回製造業の小規模事業所に、家族従業者として働く、妻の生活実態に関する調査を実施した。

この調査の結果が家族従業者福祉問題に関心をもたれるかたがたのご参考になれば幸いである。

調査の実施にあつて、ご協力いただいた対象者をはじめ、関係機関の各位に厚く御礼を申し上げます。

昭和45年8月

労働省婦人少年局

目 次

はしがき	
調査の概要	1
調査結果の要約	3
用語等の説明	8
調査結果	9
I 調査世帯および対象者の概況	9
1 家族構成	9
2 子ども数及び子どもの学令区分	9
3 家族員の家業外就業者	10
4 対象者の年令	10
5 対象者の最終学歴	11
6 対象者の現在の家業就業歴	11
7 対象者の現在の家業以外の職業歴	11
8 対象者の資格免許等の取得状況	12
II 事業所の状況	12
1 事業所の産業	12
2 事業所の全従業者数	12
3 事業所の家族従業者数	13
4 事業所の雇用者数	13
5 事業所の住み込み雇用者数	14
III 妻の家業就業	14
1 就業のしかた	14
2 1日の就業時間	15
3 仕事の内容	15
4 報酬の有無とその使用程度	17
5 休日および休養	19
6 3年前と現在の仕事の辛さ、働く時間、休日回数等の比較	20

Ⅳ	家庭生活	20
1	住居と事業所の関係	20
2	家事担当者	21
3	家事・育児時間	22
4	自由時間	23
Ⅴ	妻の健康	24
1	健康状態	24
2	仕事によるけが、病気、交通事故等	24
3	疲れた時や気分がすぐれない時の休養	25
4	産前産後の休業	26
Ⅵ	妻の意識	27
1	家業従事の理由	27
2	家業継続意思の有無及びやめたい理由	28
3	家業従事継続意思の有無及びやめたい理由	29
4	家族の家業従事上の改善点	30
5	婦人団体等への加入状況および出席状況	30
Ⅶ	生活時間調査結果	31
	調査の要領	31
1	1日の生活時間	33
2	生理的生活時間	34
	(1) 生理的生活時間の構成	34
	(2) 起床時刻と就床時刻	34
3	収入生活時間	35
4	家事的な生活時間	35
5	社会的・文化的生活時間	36
	〔付 録〕	
	調査票等	39

統 計 表 目 次

第 1 表	家族人数及び家族形態	9
第 2 表	子ども数	9
第 3 表	子どもの学令区分	10
第 4 表	家業外に就業する家族員数	10
第 5 表	対象者の年令	10
第 6 表	対象者の最終学歴	11
第 7 表	現在の家業就業年数	11
第 8 表	現在の家業以外の職業歴	11
第 9 表	資格・免許等の有無及び種類	12
第10表	事業所の産業	12
第11表	事業所の全従業者数	13
第12表	事業所の家族従業者数	13
第13表	事業所の雇用者数	13
第14表	住込み雇用者数	14
第15表	妻の就業のしかた。	14
第16表	妻の就業時間	15
第17表	仕事の内容（自分が主になつてする）	16
第18表	仕事の内容（自分が補助的になつてする）	16
第19表	報酬の金額	18
第20表	報酬の使用程度	19
第21表	休日回数	19
第22表	休日の休養の有無	19
第23表	3年前と現在の仕事の辛さ、働く時間、休日回数の比較	20
第24表	家事担当者（年令別）	21
第25表	家事・育児時間（年令別）	22
第26表	家事・育児時間への希望（年令別）	23
第27表	自由時間の区分と平均時間	23
第28表	自由時間の内容	23
第29表	健康状態（年令別）	24
第30表	過去1年間に於ける仕事によるけが、病気等	25

第31表	過去1年間に於ける仕事によるけが、病気等で家業を休んだ日数…	25
第32表	産前・産後の休業の有無	26
第33表	産前・産後の休業日数	27
第34表	家業継続についての意見	28
第35表	家業従事継続についての意見.....	29
第36表	婦人団体等加入状況	31
第37表	婦人団体等への外出状況	31
第38表	生理的生活時間	34
第39表	起床時刻	34
第40表	就床時刻	35
第41表	収入生活時間	35
第42表	家事的な生活時間	36
第43表	社会的・文化的生活時間	36

図 表 目 次

第1図	報酬の有無	17
第2図	報酬の使用程度	18
第3図	住居と事業所との関係	21
第4図	疲れた時や気分がわるい時休養できない理由	26
第5図	家業従事の理由	27
第6図	家業をやめた方がよいと思う理由	28
第7図	家業従事をやめたい理由	29
第8図	家業従事上の改善点	30
第9図	主婦の1日の生活時間	33

調 査 の 概 要

1 目 的

この調査は製造業の小規模事業所において、妻が家族従業者として就労しているものにつき、その就労の実態及び家庭生活等への影響を明らかにし、あわせて家族従業に関する妻の意識をは握して、家族従業者福祉対策の基礎資料とすることを目的とした。

2 調 査 地 域

全 国

3 調査対象者

製造業に属し、常用労働者4人以下の民営事業所1,500事業所の事業主の妻で、家業に従事しているもの。但し、回収有効数1,222名。

4 抽 出 方 法

(1) 調査区の選定

昭和41年事業所統計調査調査区を用いて一定の方法により、400調査区を選定した。

(2) 対象事業所ならびに対象者の抽出

(1)に属する各調査区内に所在する製造業で、常用労働者4人以下の民営事業所のうちから、一定の方法により1,500事業所を抽出した。

(2)に属する各事業所の事業主の妻であつて、不就労のもの、妻自身が事業主であるものなどを除き調査対象とした。

5 調 査 時 期

昭和45年1月16～2月14日

6 調 査 方 法

面接法（各都道府県婦人少年室職員及び婦人少年室長の委嘱する調査員による）

7 調 査 項 目

- (1) 事業所に関する事項
- (2) 家族構成に関する事項
- (3) 本人に関する事項
- (4) 本人の就労に関する事項
- (5) 家庭生活に関する事項
- (6) 健康に関する事項

(7) 妻の意識に関する事項

(8) 生活時間に関する事項（対象者の一部に実施）

8 調査機関

労働省婦人少年局

調 査 結 果 の 要 約

1 事業所に関するもの

<産業の種類>

対象者は製造業の各種産業に広く分布しているが、なかでも金属製品製造業（21％）、繊維工業（17％）、食料品製造業（15％）などの順に、割合が高い。

<従業者数>

一事業所あたりの従業者数の平均は5.1人であり、その構成は事業主のほか、家族従業者1.6人、雇用者2.4人である。

家族従業者の性別では、一事業所あたり男子0.4人、女子1.2人である。

全対象事業所のうち、女子家族従業者（おおむね妻）数1人という事業所は8割と多く、2人というものも2割弱ある。

事業所のうち7割は男子の家族従業者が全然いない。

2 家族に関するもの

<家族形態>

夫婦だけまたは夫婦と子どもから成る基本家族が6割、親、兄弟、孫などを含む複合家族が4割である。

<家族員数>

4人が最も多く、平均は4.9人である。

<子ども数>

子ども数2人というものが最も多い。

学令区分別には、中学生以上の子どもがいるもの54％、小学生のいるもの34％、学令前の子どもがいるもの28％である。

<妻の年令>

40才代（35％）と30才代（31％）が多く、平均42才である。

<妻の現在の家業就業歴>

現在の家業に長年就業しているものが多い。10年以上就業しているもの57％、5年以上10年未満のもの22％、1年以上5年未満19％などである。

3 妻の家業就業に関するもの

<就業の形態>

対象者は、“毎日雇用者なみに働く”ものと“毎日随時働く”ものが夫々4割あり、他に“不定期に働く”ものが2割ある。

<就業の時間>

妻が事業所で1日に実際に働く時間は平均6時間6分である。8時間以上10時間未満就業するものが全体の $\frac{1}{4}$ を占めて最も多い。

年令別にみると40才代の妻の就業時間が6時間36分で他年代に比し、最も長い。

<仕事の内容>

妻が、主になつてする仕事の内容としては“お茶くみ、職場の掃除、まかない”などの雑用をあげるものが全体の6割を占めて最も多く、ついで“生産（製造）”従事の3割強、“経理、一般事務”2割余である。労務管理や金融資金くりなどを主にやるものは1割にみたない。

妻が補助的にやる仕事は“生産”が4割弱、ついで“経理、一般事務”の2割弱である。

<報酬の有無>

妻が働いた報酬として、“毎月定額をもらう”ものが4割あり、他に“不定期にもらう”ものが2割弱あるが、“全然もらわない”ものも4割ある。

報酬を“毎月定額をもらう”ものの平均は2万4千円、“不定期にもらう”ものの平均は8千円である。

<報酬の使用ていど>

妻が働いて得た報酬を自分自身のことに“使える”というものは7割である。使用できる程度は、“全部使える”もの3割強“半分つかえる”もの2割、“大部分使える”もの2割弱の順である。

一方全然“使えない”というものも僅かながらある。

<休日>

“定められた休日が週1回ある”ものが半数いるが、一方“休日が定められていない”（2割），“隔週1回”（1割），“全く休日なし”（1割弱）というものもある。

4 家庭生活に関するもの

＜住居と事業所との関係＞

住居と事業所が“同じ建物の中にある”ものが半数をこえて多く、“同じ敷地内に分れてある”(3割)、“全く他所に分離してある”(1割強)などである。

＜家事担当者＞

ほとんどの妻が家事担当者であるが、他に“妻の母又は夫の母”又は“娘”が家事を担当しているものも1割強ある。

＜家事・育児時間＞

家事・育児時間の平均は4時間12分である。。6時間以上あてているものも2割強あるが、一方3時間未満のものも2割弱みられる。

年令別には、40才代の妻の家事・育児時間が最も短く3時間30分である。

対象者の4割は“もつと家事時間がほしい”と切望しており、それらは29才以下、30才代、40才代の妻に多い。

＜自由時間＞

ほとんどの妻が自由時間をもっており、自由時間の平均は2時間18分である。自由時間をもっていないというものも1割強ある。

5 妻の健康

＜健康状態＞

大部分のものは“健康である”が、2割のものは“あまり健康ではない”と答え、それらは中高年令の妻に比較的多い。

＜仕事によるけが、病気など＞

対象者のうち1割弱のものが過去1年間に“仕事によるけがや病気など”をしたことがあると答え、そのために家業を8日以上休んだものがその3割以上ある。

＜休 養＞

疲れたときや気分のすぐれないときも、“気楽に休めない”というものが $\frac{1}{4}$ ある。

“休めない”理由は、“家業が忙しいから”が大部分(73%)であり、“子どもの世話や家事をする人がいない”(45%)がこれについている。

産前・産後の休業については、産前は5割の妻が出産直前まで働いており、何日間か休んだものが3割強、休んだ日数の平均は10日間である。

産後はほとんどのものが休業しており、休んだ日数は平均35日であるが、14日未満しか休まなかつたものが1割ある。

6 妻の意識

＜家業従事の理由＞

対象者が家業に従事する理由として“働くのが当然だから”(58%)、
“求人難で従業員が得られないから”(51%)というものが目立つて多い。

＜家業継続希望の有無及びやめたい理由＞

“今後とも続けた方がよい”と家業継続を肯定するものが大部分(87%)である。“やめた方がよい”(7%)と答えたもののやめたい理由は、“将来のみとおしがない”(40%)、“事業の後継者がいない”“労働力確保のみとおしがつかない”(各35%)などである。

＜家業従事継続希望の有無およびやめたい理由＞

家業の継続を希望するもののうち、対象者自身、“今後もつづけて家業に従事したい”ものが84%ある。

自分が家業に従事することは“やめたい”というものは16%でその主なる理由は“家事時間が十分でない”(38%)、“子供の世話、しつけが出来ない”(33%)などである。

＜家族の家業従事上の改善すべき点＞

“改善すべきことがある”と答えたものが4割いる。改めたいとして最も多く出されたものは“家業と家庭生活が分離出来ない”(43%)、次いで“労働時間が長い”(34%)、“報酬がない又は少ない”(25%)、“休日がない又は少ない”などである。

7 婦人団体等への加入状況

何らかのグループに加入しているものは全体の73%ある。加入しているグループの種類は、婦人団体が全体の4割で最も多く、ついでPTA(36%)、町内会(26%)等の順である。

これらグループへの出席状況は、“たまに出席する”というものが5割前後を占めて多い。

8 主婦の生活時間

製造業に従事する主婦の1日の生活時間の構成は、生理的生活時間10時間43分（うち睡眠時間7時間33分）、収入生活時間6時間12分、家事的生活時間5時間21分（家事4時間37分、育児44分）、社会的文化的生活時間1時間44分（うちテレビ1時間3分）となつている。

用語等の説明

本調査に使用した用語等は下記の説明に従った。

- 製造業とは、ものの製造・加工を行なう産業です。この調査では製造を主として卸売・小売もしているものも含めた。
- 家族従業者とは、事業主と同居する家族ならびに親族（本人及び配偶者の兄弟姉妹、伯叔父母、甥姪など）で、有給・無給を問わずその事業所の仕事に従事するものをいう。（仕事の内容および従事の程度は問わない）
- 住込従業員とは、本調査では、事業主の住宅内または事業所の構内に常時居住している雇用者で、かつ、原則として毎日1回以上食事の支給を受けているものをいう。食費や部屋代を払っているか否かは問わない。なお、同居の家族ならびに親族従業者は住込従業員とはみなさない。
- 産業の種類は、製造業の中で女子家族従業者が多い業種に区分（詳細は後掲、製造業分類表参照）したが、これらに属さないものは「その他」に含めた。また、繊維工業には、衣類、その他の繊維製品製造業も含めた。
- 在籍従業者数は、昭和45年1月16日現在で、対象事業所に働くものの全数、すなわち、事業主、家族従業者および雇用者等の数をとった。
- 事業主とは、事業を事実上管理するものをいう。個人経営事業所では個人業主、法人組織事業所の場合は実質的にその法人を代表するもの、通例社長をさす。
- 雇用者とは、常用、臨時、日雇、パートタイマーを問わずその対象事業所を働き場所として、在籍しているものはすべて含めた。ただし、事業主、同居の親族および家族従業者は除いた。
- 仕事が原因の病気とは、職場が非常に暑かつたり、寒かつたり、音がやかましかつたり、仕事の際に取り扱う材料や薬品などや仕事によつて発生するガス（一酸化炭素）や蒸気（ガソリンなど）あるいは粉じん（岩石、金属、木材など）がたちこめるようなことがあつたり、重たいものを運んだり、不自然な姿勢で長時間働くなどして体に障害をおこしてくる場合、すなわち、火傷、熱射病、凍傷、難聴、結膜炎、皮膚炎やいろいろな中毒症、じん肺、ぜん息、腰痛症などの、いわゆる職業病とよばれる病気または中毒などの症状のことをいう。

調 査 結 果

I 調査世帯および対象者の概況

1 家族構成

対象者の平均家族員数は4.9人で、人数分布別では4人家族が27%、5人家族が26%で最も多く、次いで6人(17%)、3人(12%)の順になっている。

家族形態は夫婦だけか夫婦と子どものいる核家族が6割、複合世帯が4割である。(第1表)

第1表 家族人数及び家族形態

家 族 員 数											家族形態		
總 数		2 人	3 人	4 人	5 人	6 人	7 人	8 人	9 人	10人	平均 員数	基本 世帯	複合 世帯
実 数	%												
1222	100.0	4.4	12.2	26.9	26.0	17.3	8.3	3.0	1.5	0.4	4.9	59.2	40.8

2 子ども数及び子どもの学令区分

対象者のうち未婚の子どもを持っているものは89%、持っていないものが11%いる。

平均子ども数は2人で、人数別でも子どもが2人いるものが最も多い(38%)。次いで3人の26%、1人の18%となり、4人以上は7%と少ない。(第2表)

次に子どもの学令区分をみると、中学生以上の子どもを持つものが全対象者の半数強54%、小学生をもつ者34%、学令前の子どもをもつものの28%である。

(第3表)

第2表 子 ど も 数

総 数		0 人	1 人	2 人	3 人	4 人	5 人 以 上	平 均 子ども数
実 数	%							
1,222	100.0	11.2	17.5	38.0	26.0	5.6	1.7	2.0

第3表 子どもの学令区分

総 数		学令前	小学生	中学生 以 上
実 数	%			
1,222	100.0	27.7	34.0	53.8

注) 多答のため各項の計は100%をこえる。

3 家族員の家業外就業者

家族の中で家業以外の仕事についている者がいるというものは21%で、いないものが8割と大部分を占める。

家業外就業者の人数は、1家族に1人というものが15%で一番多い。(第4表)

第4表 家業外に就業する家族員数

総 数		0 人	1 人	2 人	3 人	4 人	5 人 以 上	平 均 員 数
実 数	%							
1,222	100.0	79.1	14.5	5.1	1.0	0.2	0.1	0.3人

4 対象者の年令

対象者の平均年令は42才である。年令階層別では、40才代と30才代のものが多く(35%と31%)、ついで、50才代18%、29才以下10%、60才以上6%という分布である。(第5表)

第5表 対 象 者 の 年 令

総 数		29才 以 下	30才代	40才代	50才代	60才 以 上	不 明	平 均 年 令
実 数	%							
1,222	100.0	10.4	31.4	34.7	17.7	5.6	0.2	42才

5 対象者の最終学歴

対象者の最終学歴をみると、“小学・高小・新制中卒”が6割を占めて最も多く、次に“旧高女・新制高卒”が4割弱ある。“旧専・短大卒以上”のものも僅かながらみられる(2%)。(第6表)

第6表 最 終 学 歴

総 数		小学・高小 新 制 中 卒	旧高女・ 新制高卒	旧専・短 大卒以上	不 明
実 数	%				
1,222	100.0	60.6	37.0	1.9	0.5

6 対象者の現在の家業就業歴

対象者の現在の家業についての就業年数をみると、10年以上就業している者が大半で(57%)、5年以上～10年未満が22%、1年以上～5年未満19%、1年未満2%で、比較的就業年数の長い者が多い。(第7表)

第7表 現在の家業就業年数

総 数		1年未満	1年以上 ～5年未満	5年以上 ～10年未満	10年以上	不 明
実 数	%					
1,222	100.0	2.3	18.9	22.0	56.5	0.3 ^年

7 対象者の現在の家業以外の職業歴

現在の家業以外の職業歴をみると、職歴のあるものが52%いる。職歴の内容は、非農林水産業に従事したものが44%、農林水産業が10%ある。非農林水産業の中では雇用がその大部分(38%)を占めており、家業は6%で少ない。家業はそのほとんどが製造業である。(第8表)

第8表 現在の家業以外の職業歴

総 数		農 林 水産業	非 農 林 水 産 業									職 歴 な し
実 数	%		小 計	家 業			雇 用					
				計	製造業	その他	計	事 務	現業作業	その他	不 明	
1222	100.0	10.3	44.3	6.4	4.3	2.1	37.9	15.3	12.1	9.0	1.5	47.8

注) 多答のため各項の計は100%をこえる。

8 対象者の資格・免許等の取得状況

資格、免許、特殊技能などの有無については、“有り”と答えたものが全体の34%いる。“有り”と答えたものの資格、免許、特殊技能の内容は、自動車運転免許が15%と多く、次いでソロバンの9%、タイプ5%、簿記4%の順である。(第9表)

第9表 資格・免許等の有無及び種類

総 数		ソロバン	簿 記	タイプ	自動車運 転 免 許	その他	特になし	不 明
実 数	%							
1,222	100.0	8.6	3.9	4.9	15.1	7.5	66.3	1.1

注) 多答のため各項の計は100%をこえる。

II 事業所の状況

1 事業所の産業

対象事業所の産業はすべて製造業に属するが、これを更に細分すると次のとおりである。すなわち、金属製品製造業の21%、繊維工業の17%、食料品製造業15%、木材・木製品製造業9%、家具・装備品製造業8%の順のほか、各種の産業に分布している。(第10表)

第10表 事業所の産業

総 数		食料品	繊 維	木材、木	家具、装	パルプ、紙	出版、印	窯業、土	金属製	その他	不 明
実 数	%	製造業	工 業	製品製造 業	備品製造 業	紙加工品 製 造 業	刷、同関 連産業	石製品製 造業	品製造 業		
1,222	100.0	15.2	17.2	9.1	7.5	3.2	5.2	6.4	20.8	15.0	0.4

2 事業所の全従業者数

事業所の事業主、家族従業者、雇用者を含めた全従業者数は、一事業所当り平均5.1人である。

人数分布別では6人以上の事業所が最も多く34%、次いで4人が22%、3人が18%、5人17%、2人11%の順である。(第11表)

第11表 事業所の全従業員数

総 数		2 人	3 人	4 人	5 人	6 人	不 明	平均従業員数
実 数	%							
1,222	100.0	10.5	17.7	21.5	16.6	33.6	0.1	5.1人

3 事業所の家族従業員数

対象事業所には事業主を除いて平均1.6人の家族従業員がいる。これを人数分布別にみると、家族従業員が1人いる事業所が全体の6割近くを占めて最も多く、2人が26%、3人が13%で、4人以上は4%と少ない。

次に家族従業員の男女別の状況をみると、男の家族従業員の全然いない事業所が67%ある。女の家族従業員は1人という事業所が8割で、2人が19%、3人以上は2%弱にすぎない。(第12表)

第12表 事業所の家族従業員数(事業主をのぞく)

総 数		0 人	1 人	2 人	3 人	4 人	5 人以上	不 明	平均家族従業員数
実 数	%								
1,222	100.0	—	57.6	26.1	12.5	2.5	1.2	0.1	1.6人
男	1,222	100.0	67.3	26.4	4.7	1.2	0.2	0.1	0.4
女	1,222	100.0	—	79.1	19.1	1.4	0.3	—	1.2

4 事業所の雇用者数

対象事業所の雇用者数の平均は2.4人であるが、全然雇用者のいない事業所も全体の2割ある。雇用者数2人というものが一番多い(21%)。また5人以上雇っている事業所も12%あった。(第13表)

注) 対象事業所は原則として常雇4人以下の事業所を41年事業所統計調査区カードより抽出したものであるが、調査実施の際は45年1月16日現在の在籍者数をとつたので、人員が増減した事業所もみられた。

第13表 事業所の雇用者数

総 数		0 人	1 人	2 人	3 人	4 人	5 人以上	不 明	平均雇用者数
実 数	%								
1,222	100.0	20.9	20.2	21.4	14.3	11.0	12.1	0.1	2.4人

5 事業所の住み込み雇用者

対象事業所の住み込み雇用者の有無をみると、いない事業所がほとんどで全体の85%を占め、「いる」事業所は15%である。

一事業所当りの住み込み雇用者数は平均0.3人で、住み込み雇用者1人という事業所が全体の9%、2人が4%、3人と4人はそれぞれ1%と、いずれも少ない。
(第14表)

第14表 住み込み雇用者数

総 数		0 人	1 人	2 人	3 人	4 人 以 上	不 明	平均住 み込み雇 用者数 人
実 数	%							
1,222	100.0	84.6	8.8	3.8	1.4	1.3	0.1	0.3

Ⅲ 妻の家業就業

1 就業のしかた

事業所での妻の就業のしかたは、“毎日雇用者なみに働く”というものが最も多く41%であるが、“毎日随時”というものもほぼ同率で40%いる。その他“不
定期に働く”というものが19%いる。

年令別にみると、“毎日雇用者なみに働く”というものは40才代(49%)と30才代(41%)に多く、“毎日随時”というものは29才以下(47%)に、
(注) “不定期”というものは60才以上(32%)に多い。(第15表)

注) 不定期とは都合のよい日だけとか、仕事の繁忙時だけに家業に従事するなどの状態をいう。

第15表 妻の就業のしかた

		総 数		毎日雇用 者 な み	毎 日 時 随 時	不 定 期
		実 数	%			
		1,222	100.0	41.2	39.9	18.9
年 令	29才以下	127	10.0	30.0	47.2	22.8
	30才代	384	10.0	41.2	39.3	19.5
	40才代	424	10.0	49.1	36.1	14.8
	50才代	216	10.0	38.0	44.0	18.0
	60才以上	68	10.0	25.0	42.6	32.4
不 明		3	10.0	—	—	100.0

2 1日の就業時間

妻が事業所で実際働く時間は平均6時間6分であるが、就業時間数別にみるとかなり広範囲に分れている。すなわち、8時間以上10時間未満就業するものが全体の $\frac{1}{4}$ を占め最も多いが、4時間以上6時間未満と、6時間以上8時間未満就業するものも2割前後ある。2時間未満というものは5%で少ない。一方10時間以上就業するものが約13%ある。

なお、毎月勤労統計特別調査44年分によれば製造業1～4人規模の女子常用労働者の1日の実働時間は7時間48分である。

年令別にみると40才代の妻の就業時間が最も長く6時間36分で、次いで50才代6時間8分、30才代5時間58分、29才以下5時間26分、60才以上4時間54分である。29才以下と30才代では、4～6時間働くものが最も多く、40才代、50才代では8～10時間、60才以上では2～4時間働くものの率が高い。(第16表)

第16表 妻の就業時間

		総 数		2時間	2時間以上 4時間未満	4 ～ 6	6 ～ 8	8 ～ 10	10時間 以上	不 明	平 均 就 業 時 間
		実 数	%	未 満	未 満						時間分
計		1,222	100.0	4.7	14.6	23.6	19.2	24.9	12.6	0.4	6 6
年 令	29才以下	127	100.0	7.9	18.9	26.0	15.0	19.7	11.0	1.5	5. 26
	30才代	384	100.0	4.9	12.8	26.6	22.1	24.2	9.4	—	5. 58
	40才代	424	100.0	2.6	11.8	22.4	20.0	25.7	17.5	—	6. 36
	50才代	216	100.0	4.2	16.2	19.0	18.0	29.6	11.6	1.4	6. 8
	60才以上	68	100.0	11.8	29.4	22.1	10.3	19.1	7.3	—	4. 54
	不 明	3	100.0	—	—	100.0	—	—	—	—	4. 18

3 仕事の内容

対象者が職場で従事する仕事の内容は多種類にわたるが、なかでも自分が主になつてする仕事としては、“お茶くみ”職場の掃除、まかない”などの雑用がもつとも多く、全体の6割近くを占めている。ついで生産活動(製造)が3割強、^{注)}經理、一般事務、2割余である。労務管理や金融資金ぐり、仕入、販売を主となつてやるものは5%前後で少ない。

年令別には、各年代を通じて、雑用をあげるものが最も多い。30才代および40

才代では、自分が主になつて生産に従事するものが次に多く（38%、36%）、29才以下では、経理・一般事務につくものが比較的多い（31%）。（第17表）

また、自分が補助的にやる仕事としては生産活動をあげるものが多く（38%）、経理・一般事務が15%でこれに次いでいる。仕入・販売（9%）や労務管理、金融資金ぐり（8%）を補助的にやるものは少ない。

年齢別には、40才代で金融・資金ぐりや労務管理を補助的にやるものが、他の年代に比べて多い。（第18表）

注）ここで労務管理とは、従業者に対して行なう管理、すなわち労働と関係したことで、めんどろをみることで、人間関係の調整、福利厚生、労働時間、休憩、休日等の適正化などに関する管理をいう。

第17表 仕事の内容（自分が主になつてする）

		総 数		労 務 管 理	金 融 資金ぐり	経理・一 般事務	仕入・生 産 販 売(製 造)	雑 用 (お茶くみ 掃除・ま かない)	その他	
		実 数	%							
計		1,222	100.0	5.7	5.2	21.4	4.8	32.3	58.1	2.7
年 令	29才以下	127	100.0	8.7	2.4	30.7	3.1	23.6	52.8	2.4
	30才代	384	100.0	5.7	5.7	23.4	3.6	37.8	62.5	2.9
	40才代	424	100.0	6.1	6.6	24.8	6.6	36.1	54.5	2.1
	50才代	216	100.0	4.2	4.2	12.0	5.1	26.4	63.9	4.2
	60才以上	68	100.0	—	1.5	3.0	3.0	14.7	48.5	1.5
	不 明	3	100.0	—	—	—	—	—	100.0	—

注）多答のため各項の計は100%をこえる。

第18表 仕事の内容（自分が補助的になつてする）

	総 数		労 務 管 理	金 融 資金ぐり	経 理 一般事務	仕 入 販 売	生 産 (製造)	雑 用 お茶くみ 掃除 まかない	その他	不 明
	実 数	%								
計	1,222	100.0	8.4	7.9	14.8	8.9	38.1	14.2	1.6	1.3

注）多答のため各項の計は100%をこえる。

4 報酬の有無とその使用程度

(1) 報酬の有無

働いた報酬を多少にかかわらず、実際にもらっているかどうかについては、“全然もらわない”というものが39%で最も多い。これとほぼ同率に“毎月きまつた額をもらう”ものが38%あり、他に“不定期にもらう”ものが17%ある。(第1図)

(2) 報酬額

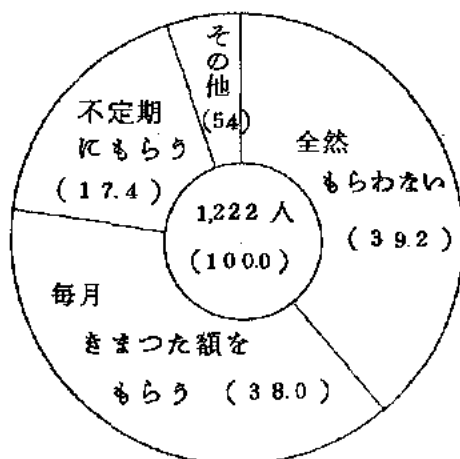
報酬を受けているものの月額平均は1万9千円である。その金額分布をみると3万円以上のものが23%で多く、ついで2万~2万5千円(19%)、1万~1万5千円(13%)、4千円~6千円(11%)の順に多い。4千円未満というものも6%ある。

報酬をうけているもののうち、毎月きまつた額をもらうものの平均額は2万4千円である。金額分布では3万円以上が31%で多く、2万~2万5千円(23%)、1万5千~2万円と1万~1万5千円(各11%)がこれにつづく。4千円~6千円未満のものも5%ある。

不定期に報酬をうけているものの平均額は8千円である。金額分布は4千円~6千円のものが25%で多く、1万円~1万5千円までのものがこれにつづく(18%)。4,000円未満というものも16%ある。

なお、毎月勤労統計特別調査によれば44年分、製造業1~4人規模の女子常用労働者の月額給与は、20,769円である。(第19表)

第1図 報酬の有無



第19表 報酬の金額

	報酬を受けているもの総数		円											不明	平均金額
	実数	%	2,000未満	2,000以上4,000未満	4,000～6,000	6,000～8,000	8,000～10,000	10,000～15,000	15,000～20,000	20,000～25,000	25,000～30,000	30,000以上			
計	677	100.0	0.9	5.0	11.2	3.0	1.2	13.1	8.6	18.9	9.9	22.7	5.5	18,938円	
毎月きまつた額をもらう人	464	100.0	—	1.5	5.0	2.1	0.9	10.8	10.8	23.1	14.0	31.4	0.4	23,938	
不定期にもらう人	213	100.0	2.8	12.7	24.9	4.7	1.9	18.3	3.8	10.0	0.9	3.8	16.2	8,046	

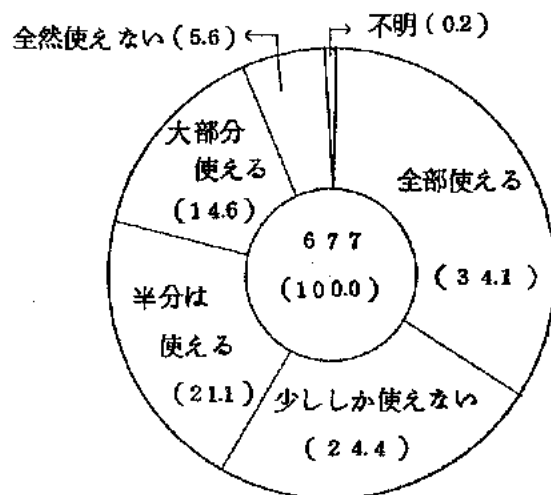
(3) 報酬の使用程度

妻が働いた分として定期的、不定期的いづれにしても、報酬を受けているもの（55%）のなかで、その報酬を自分自身のことに使えるかどうかをみると、“全部使える”ものが34%，“大部分使える”もの15%、そして“半分使える”ものが21%となっており、半分以上自分で使えるものが7割に達している。反面、“全然使えない”ものも6%いる。

毎月きまつた額をもらうものと不定期にもらうものを分けてみると、定期的にもらうもので“全部使える”というものは3割にみえず、“少ししか使えない”（27%），“全然使えない”（7%）ものが3割強に上る。

一方“不定期にもらう”ものには、“全部使える”ものの率が高い（46%）。（第2図、第20表）

第2図 報酬の使用程度



第20表 報酬の使用程度

	総 数		全 部	大 部 分	半 分 は	少 し し か	全 然	不 明
	実 数	%	使える	使える	使える	使えない	使えない	
毎月きまつた額をもらう人	464	100.0	28.7	13.6	24.1	27.1	6.5	—
不定期にもらう人	213	100.0	46.0	16.9	14.6	18.3	3.8	0.4

5 休日および休養

家業に従事する妻に、きめられた休日があるか否かをみると、“週1回きめられた休日がある”ものが半数（58%）を占めているが、他は“休日が定まっていない”もの21%、週に1回はない（隔週に1回など）もの11%、全く休日がないもの7%の割合になつている。（第21表）

そのきめられた休日に、妻は完全に事業所の仕事を休むかどうかについては、ほとんど（93%）の妻が休んでいるが、休まないものも僅かながらみられる（6%）。（第22表）

第21表 休 日 回 数

総 数		休日なし	週に1回 はない	週 1 回	週 1 回 以 上	きまつて いない	不 明
実 数	%						
1,222	100.0	7.4	11.1	57.7	2.5	21.2	0.1

第22表 休日の休養の有無

休日ありの人総数		完 全 に 休 む	大 体 休 む	ほとんど 休まない	全 然 休まない	不 明
実 数	%					
871	100.0	66.4	26.6	5.7	0.6	0.7

6 3年前と現在の仕事のつらさ、働く時間、休日回数等の比較

現在の仕事の状態や、働く時間、または休日の状況につき、3年前と比べての変化をみると、つらさ、時間、休日ともに“変わらない”と答えたものが5割前後ある（47%、54%、69%）。

仕事の内容については“楽になつた”と答えたものが32%に対し、“辛くなつた”ものが15%あり、就業時間については、“短くなつた”ものが24%あるが、逆に“長くなつた”ものが16%、休日回数については、“増えた”ものが20%に対し、逆に“減つた”ものが6%を示している。（第23表）

第23表 3年前と現在の仕事の辛さの比較

総 数		楽になつた	つらくなつた	変わらない	3年前には仕事に従事していなかつた	不 明
実 数	%					
1,222	100.0	31.5	14.9	46.7	6.4	0.5

第23表の(2) 3年前と現在の働く時間の比較

総 数		短くなつた	長くなつた	変わらない	3年前は仕事に従事していなかつた	不 明
実 数	%					
1,222	100.0	23.6	15.5	53.9	6.4	0.6

第23表の(3) 3年前と現在の休日回数の比較

総 数		増 え た	減 つ た	変わらない	3年前には仕事に従事していなかつた	不 明
実 数	%					
1,222	100.0	20.2	4.0	68.3	6.4	1.1

IV 家 庭 生 活

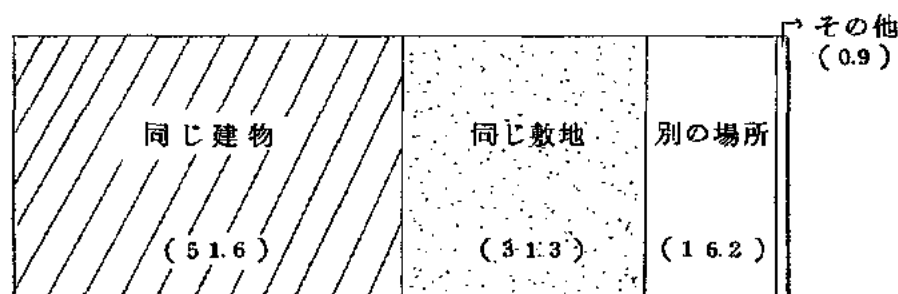
1 住居と事業所との関係

事業主の住居と事業所との分離状況をみると“同じ建物内”に住居と事業所が存

在するものの割合が52%であり、また“同じ敷地内に住居が分れて、ある”ものが31%で、両者を加えると、住居が同じ建物または同じ敷地内にあるものの割合は、全対象者の8割をこえている。

住居と事業所が“全く別の場所に別れて、ある”ものの率は16%である。(第3図)

第3図 住居と事業所の関係



2 家事担当者

家事担当者は家族従業者である“妻”がほとんど(87%)であるが、“妻の母または、夫の母”“娘”というものも各13%ある。

年齢別には、30才代、40才代ではほとんど(90%と91%)妻自身が家事を担当しているが、若年層の妻には“妻の母又は夫の母”が家事を担当しているものの率が高く(29才以下24%, 30才代19%), 高年齢層になるにしたがい“娘”というものが多い(60才代44%, 50才代32%)。(第24表)

第24表 家事担当者

		総 数		妻	妻・夫 の 母	娘	その他	不 明
		実 数	%					
計		1,222	100.0	87.2	12.7	12.6	2.7	2.1
年 令	29才以下	127	100.0	81.9	24.4	3.1	1.6	0.8
	30才代	384	100.0	90.4	18.8	1.6	4.2	2.9
	40才代	424	100.0	90.8	11.6	10.8	2.4	1.9
	50才代	216	100.0	80.1	9.2	31.5	1.9	2.3
	60才以上	68	100.0	77.9	1.5	44.1	1.5	1.5
	不 明	3	100.0	100.0	—	—	—	—

注) 多答のため各項の計は100%をこえる。

3 家事・育児時間

家族従業者である妻が1日のうち家事・育児にあてる時間は平均4時間12分である。時間数別でみると、6時間以上を当てているものが24%、ついで3~4時間までのもの21%、4~5時間のもの19%の順に多い。3時間未満のもの18%みられる。

年令別に家事・育児時間の平均をみると40才代の妻が、3時間30分で最も短く、29才以下が5時間42分で長い。30才代は4時間54分、50才代3時間42分、60才以上は3時間36分を家事等にあてている。(第25表)

第25表 家事・育児時間

		総 数		1時間 未満	1時間 以上~ 2時間 未満	2 ~ 3	3 ~ 4	4 ~ 5	5 ~ 6	6時間 以上	不 明	平均時間
		実 数	%									
計		1,222	100.0	1.4	4.1	12.4	20.5	19.3	17.1	24.2	1.0	4時間12分
年 令	29才以下	127	100.0	—	2.4	11.8	15.0	12.6	15.7	41.7	0.8	5. 42
	30才 代	384	100.0	0.5	3.6	10.4	17.2	17.5	20.9	29.4	0.5	4. 54
	40才 代	424	100.0	0.9	3.1	12.7	23.8	21.5	16.5	20.8	0.7	3. 30
	50才 代	216	100.0	4.6	6.9	13.0	22.2	21.8	15.7	13.9	1.9	3. 42
	60才以上	68	100.0	1.5	7.4	19.1	25.0	20.6	7.3	16.2	2.9	3. 36
	不 明	3	100.0	—	—	33.3	—	33.3	—	33.4	—	4. 18

家事・育児時間についての希望

家事・育児時間についての希望としては、“もつと時間がほしい”というものは全体の40%であり、“今のままで十分”というものが50%である。“もつと時間がほしい”と訴えたものは、30才代(48%)、29才以下(45%)、40才代(43%)の妻に多く、“今のままで十分”というものは高年令層の妻に多い(60才以上78%、50才代68%)。(第26表)

第26表 家事・育児時間についての希望

		総 数		もつと時間 がほしい	今のままで 十 分	そ の 他	不 明
		実数	%				
		1222	100.0	40.4	56.0	2.7	0.9
年 令	29才以下	127	100.0	44.9	53.5	0.8	0.8
	30才代	384	100.0	48.4	48.7	2.9	—
	40才代	424	100.0	43.2	53.3	2.8	0.7
	50才代	216	100.0	25.9	68.1	3.2	2.8
	60才以上	68	100.0	17.7	77.9	2.9	1.5
不 明		3	100.0	—	100.0	—	—

4 自由時間

全対象者の8割は、家事や仕事をはなれて、自由に使える自分の時間をもっているが、1割強のものは全く自分の時間をもっていない。

自由時間があるものの平均時間は2時間18分である。時間数は2～3時間のものが3割を占める。(第27表)

前問について、その自由時間のすごし方については、“テレビをみる”というものが圧倒的に多く(91%)、ついで“雑談”(44%)、“休息”(27%)、“新聞・雑誌”(25%)の順になっている。(第28表)

第27表 自由時間の区分と平均時間

	総 数		0時間	1時間 未 満	1 ～ 2	2 ～ 3	3 ～ 4	4時間 以 上	不 明	平均時間
	実 数	%								
計	1222	100.0	12.7	0.8	14.8	30.0	23.6	16.4	1.7	2時間18分

第28表 自由時間の内容

	自由時間の ある人総数		テ レ ビ	雑 談	新 聞 読 書	休 息	趣味・娯楽 スポーツ	そ の 他	不 明
	実 数	%							
計	1,067	100.0	91.0	43.5	25.4	26.5	14.8	7.5	0.2

注) 多答のため各項の計は100%をとえる。

V 妻 の 健 康

1 健 康 状 態

妻の現在の健康状態については、“健康である”というものが大部分（82%）であるが、他方“健康ではない”と答えたものが2割近くある。“健康でない”ものの内わけとしては“余り健康ではない”（15%），“病気がある”（3%）である。

“余り健康ではない”ものの割合は、中・高年齢層に比較的多くみられ（40代17%、50代、60才以上19%），“病気がある”ものは50才代のものにやや多い。（第29表）

第29表 健 康 状 態

		総 数		健 康	あまり健康 で ない	病気がある
		実 数	%			
計		1222	100.0	824	14.8	2.8
年 令	29才以下	129	100.0	92.1	7.1	0.8
	30才代	384	100.0	86.7	11.7	1.6
	40才代	424	100.0	80.0	17.0	3.0
	50才代	216	100.0	75.0	19.0	6.0
	60才以上	68	100.0	79.4	19.1	1.5
	不 明	3	100.0	66.7	33.3	—

2 仕事によるけが、病氣、交通事故等

調査時点より遡つて、過去1年間に対象者が仕事の上でけがをしたり、病氣になつたりあるいは家業の用事で外出したとき交通事故にあつたことなどがあるかどうかについては、“ある”と答えたものが全対象者の7%いる。“ある”もののうち“仕事からくる病氣”といつたものが半数に近く、“職場でのけが”および“その他”と答えたものが各 $\frac{1}{4}$ 、交通事故にあつたものも僅かながらある。（第30表）

“その他”の内容としては、目のつかれ、肩こり、指先の荒れ、頭痛、難聴、神経痛等をあげている。

これらの対象者が仕事上でのけがや病氣等のために家業をどのていど休んだかをみると、“8日以上休んだ”ものが35%あり、“1日も休まない”ものも同率の35%ある。4日～7日間休業のものは13%、1日～3日のもの9%などである。

(第31表)

第30表 過去1年間における仕事によるけが・病気等

	総 数		あ る						な い	不 明
	実 数	%	小 計	職場で のけが	仕事か らくる 病 気	交 通 事 故	その他	不 明		
計	1,222	100.0	7.0	1.6	3.1	0.5	1.6	0.2	92.9	0.1

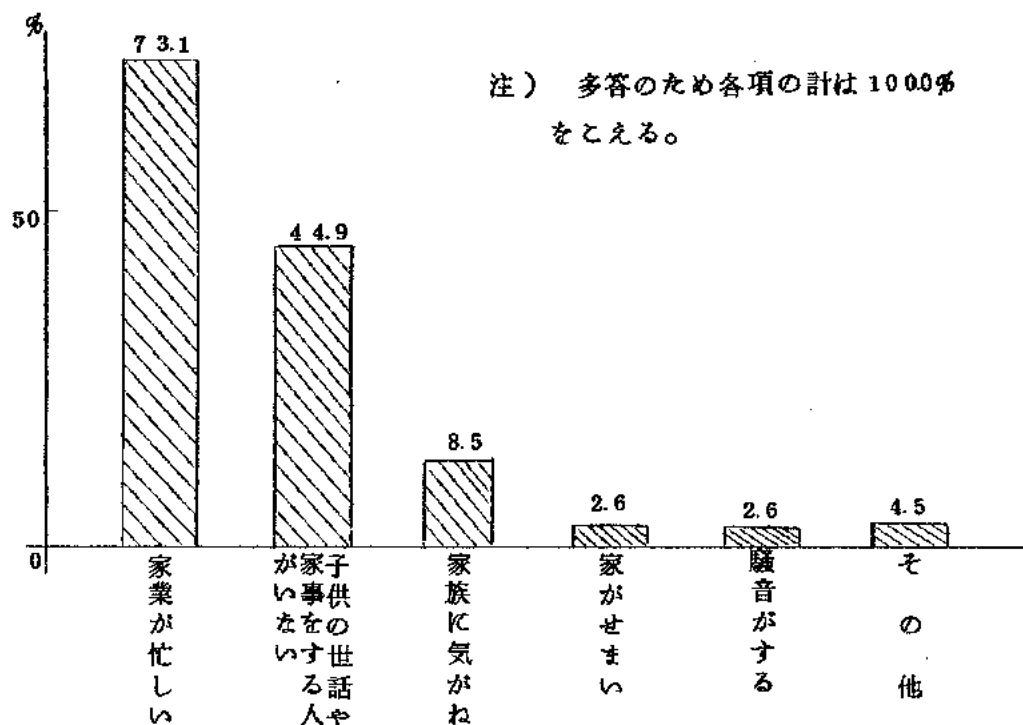
第31表 過去1年間における仕事によるけが・病気等で
家業を休んだ日数

	けが、病気な どのあるもの 総 数		1 日 ～ 3 日	4 日 ～ 7 日	8 日 以 上	1 日も休ま な い	不 明
	実 数	%					
計	85	100.0	9.4	12.9	35.3	35.3	7.1

3 疲れたときや気分のすぐれない時の休養

ひどく疲れたときや気分がすぐれないとき“気楽に休めない”というものが全対象者の $\frac{1}{4}$ ある。休めない理由は“家業が忙しいから”というものが大部分(73%)であるが、“子供の世話や家事をする”ため(45%)をあげるものも多い。その他、“家族に気がね”(9%)、“家が狭い”、“やかましい”などの理由が出されている。(第4図)

第4図 疲れた時や気分がわるいとき休養のできない理由



4 産前産後の休業

学令前の子どものある人の、調査時点にもつとも近い時の出産時の休業については、産前では“休まなかつた”というものが半数をこえ(52%), “休んだ”36%, 当時は家業に従事していなかつたというものが12%ある。産後では、“休んだ”ものが87%で、“休まなかつた”ものは2%にみえない。(第32表)

休んだ日数は産前は平均10日、産後は平均35日である。休日の分布は、産前休んだものは“21日以上”が17%, 7~14日が11%であり、産後は21日以上休んだものが7割近く、14~21日間までのものが2割強ある。(第33表)

第32表 産前・産後の休業の有無

	学令前の子供のある人 総 数		産 前				産 後			
	実 数	多	休んだ	休まな か かつた	当時は家業 に従事して いなかった	不 明	休んだ	休まな か かつた	当時は家業 に従事して いなかった	不 明
計	338	1000	35.5	52.4	11.8	0.3	87.0	1.5	11.2	0.3

第33表 産前・産後の休業日数

計	総 数		0 日	7 日 未 満	7 ～14日	14 ～21日	21日以上	不 明	平 均 日 数
	実 数	%							
産 前	297	100.0	59.6	5.4	11.1	6.7	16.9	0.3	9.5日
産 後	299	100.0	1.7	0.3	8.0	21.4	67.6	1.0	3.45

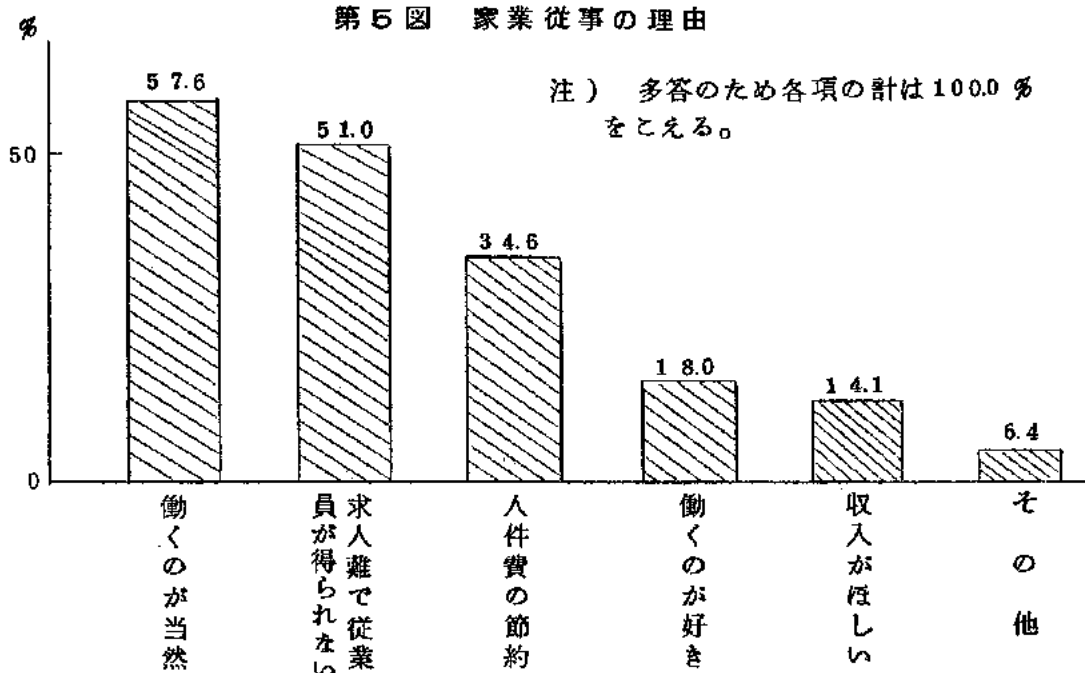
注) 表側の産前及び産後欄の実数は前表の学令前の子供のある人総数より、それぞれ“当時は家業に従事していなかった”ものを除いた数である。

VI 妻の意識

1 家業従事の理由

対象者が家業に従事している主な理由は、“働くのが当然だから”というものが58%で最も割合が高いが、同時に“求人難で従業員が得られないから”を理由とするものも51%を占める。他に“人件費の節約になるから”と答えたものも35%あり、“働くのが好き”だから18%、“収入がほしい”から14%などの理由があげられている。“その他”(6%)の内容としては“親の代からの商売だから”、“働かねば生活できぬから”、“職を身につけて将来にそなえたいから”などがある。(第5図)

第5図 家業従事の理由



2 家業継続意思の有無及びやめたい理由

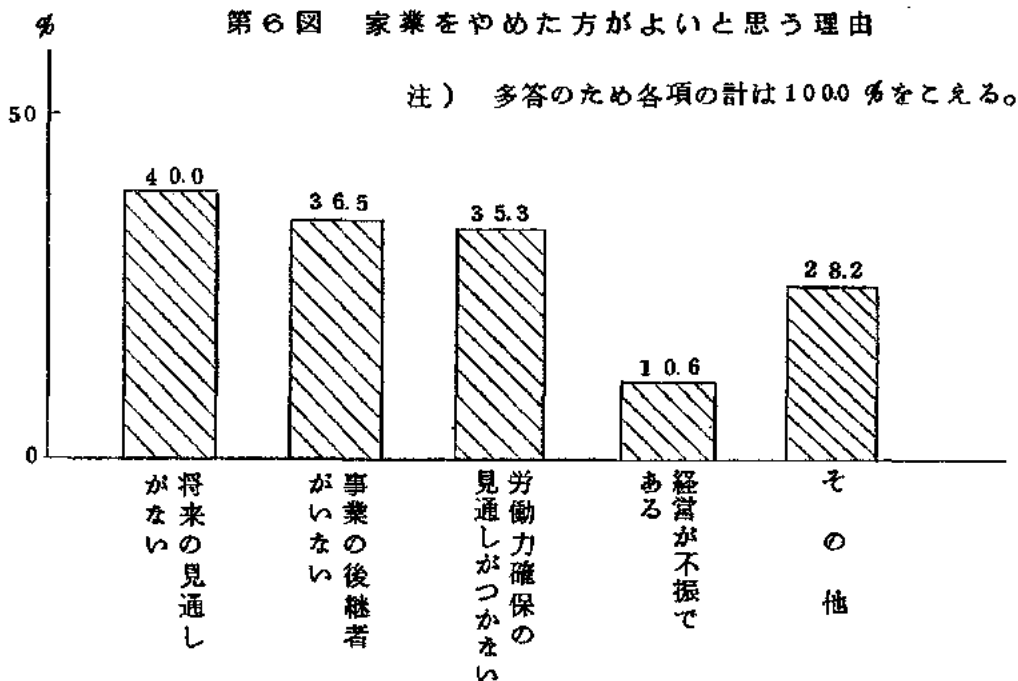
現在の事業を今後とも続けた方がよいと思うかどうかについては、“今後とも続けた方がよい”とするものが大部分（87%）で、“やめた方がよい”ものはきわめて少ない（7%）。（第34表）

“やめた方がよい”と答えたものの、やめたい理由として、“将来のみとおしがない”というものが40%で最も多く、ついで“事業の後継者がいない”、“労働力確保のみとおしがつからない”が同率の35%，“経営不振”を理由にあげたものが11%ある。他に“その他”（28%）の内容として“過労である”、“自由時間がない”、“家事と家業の両立がむづかしい”“働いても収入が少ない”などを理由にあげるものがかなりみられる。（第6図）

第34表 家業継続についての意見

総 数		続けた方が よ い	やめた方が よ い	わからない
実 数	%			
1,222	100.0	86.9	7.0	6.1

第6図 家業をやめた方がよいと思う理由



3 家業従事継続意思の有無およびやめたい理由

対象者自身は、今後もひきつづき家業に従事したいかどうかをたずねたところ、家業の継続を肯定するもののうち、84%が自分も“今後つづけて従事したい”と答えている。(第35表)

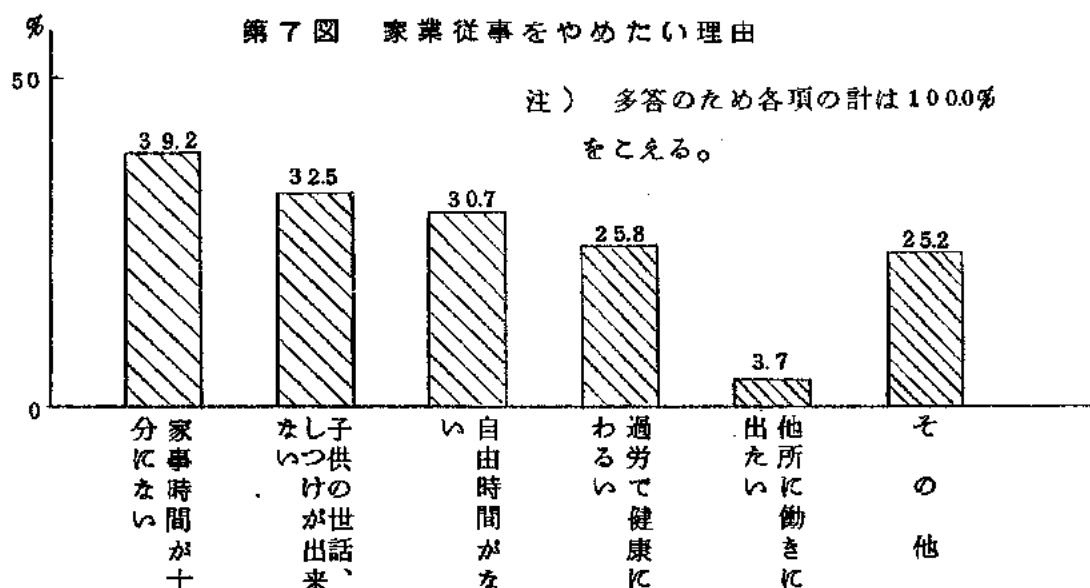
“できればやめたい”もの15%，“ぜひともやめたい”ものは1%であるが，“やめたい”理由として一番多くあげられたものは，“家事時間が十分でない”(38%)であり、次は“子供の世話、しつけが出来ない”(33%)，“自由時間がない”(31%)，“過労で健康にわるい”などの順である。“他所に働きたい”と転職を希望するものは4%で僅かである。“やめたい”ものの多くは家庭生活との両立に悩んでいるものとみうけられる。(第7図)

“その他”の理由(25%)としては，“年をとつたのでやめたい”“若いものにゆずりたい”，“趣味や娯楽のある生活がしたい”などが多い。

第35表 家業従事継続についての意思

家業継続を希望 する人 総 数	実 数	%	つづけて従 事したい	できればや めたい	ぜ ひ やめたい
	1,062	100.0	84.1	15.3	0.6

第7図 家業従事をやめたい理由

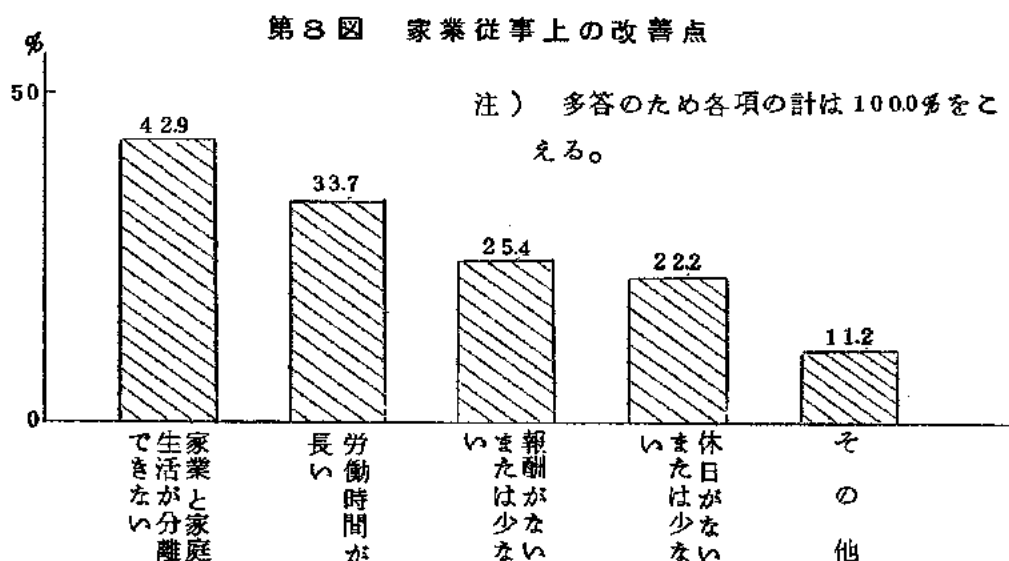


4 家族の家業従事上の改善点

妻をはじめ家族が家業に従事する上で、“改善すべきことがある”と答えたものが41%ある。

改めたいこととして最も多く出されたものは“家業と家庭生活の分離”で全体の43%あり、次に“労働時間が長い”(34%)，“報酬がない又は少ない”(25%)，“休日がない又は少ない”(22%)など、就業条件に関するものをあげるものが多い。“その他”(11%)として“企業の機械化、合理化”や“人づかいがむづかしい”，“住込者の世話が負担である”などもあげられている。

(第8図)



5 婦人団体等への加入状況及び出席状況

婦人団体等の加入状況をみると、何らかのグループに加入しているものは全体の73%ある。

加入グループの種類は、婦人団体が全体の4割で最も多く、ついで、PTA(36%)、町内会(26%)である。趣味や勉強のグループ(11%)や、業者団体(8%)は1割前後で少なく、社会奉仕のグループに加入しているものはわずか2%にすぎない。(第36表)

注) 業者団体とは、同業組合、事業協同組合、商工会議所または商工会等とこれに属する婦人部等のことをいう。

第36表 婦人団体等加入状況

総 数		業 者 団 体	P T A	町内会	婦 人 団 体	趣味や 勉強の グループ	社会奉 仕のグ ループ	その他	何も入 つてい ない
実 数	%								
1222	100.0	7.7	35.5	25.9	39.6	11.4	2.0	5.6	26.9

注) 多答のため各項の計は100%をとえる。

婦人団体等への外出状況は、趣味や勉強のグループに加入しているものは“そのためにたびたび外出している”ものが他のグループに比して多い(46%)。各団体を通じて“たまに外出する”というものが5割前後を占めている。“加入はしているが全然そのために外出はしない”というものは、婦人団体(35%)、業者団体(31%)、町内会(30%)というものにやや多い。(第37表)

第37表 婦人団体等への外出状況

	各団体等へ加入 している人総数		た び た び あ る	た ま に あ る	全 然 な い
	実 数	%			
業 者 団 体	94	100.0	17.0	52.1	30.9
P T A	434	100.0	29.5	64.3	6.2
町 内 会	316	100.0	16.5	53.5	30.0
婦 人 団 体	484	100.0	14.9	50.6	34.5
趣味・勉強のグループ	139	100.0	46.0	48.2	5.8
社会奉仕のグループ	25	100.0	20.0	60.0	20.0
そ の 他	68	100.0	47.1	50.0	2.9

VII 生活時間調査の結果

(調査の要領)

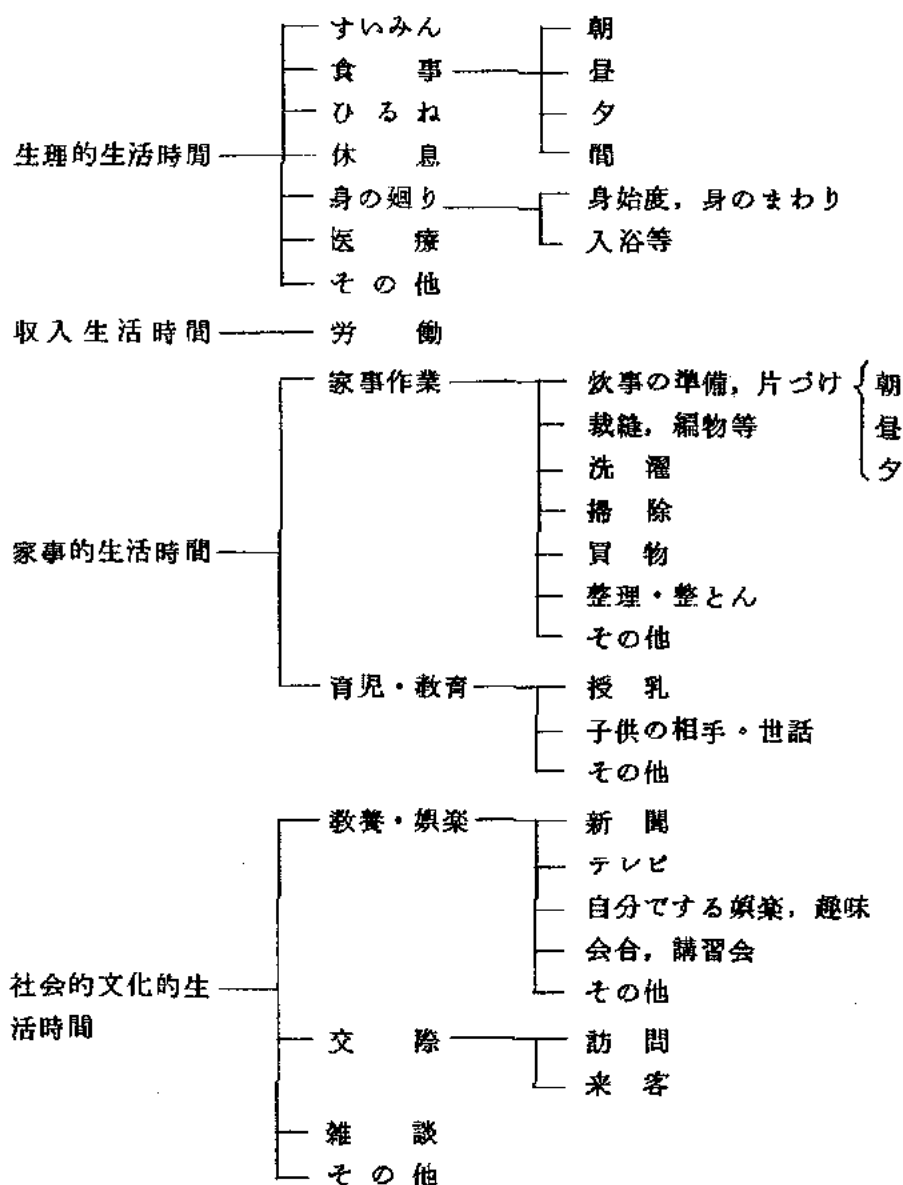
製造業の小規模事業所に家族従業者として働く妻の生活の実態を、生活時間構造の面からは握するため、本調査対象者の一部(152名)に対して、生活時間調査を行なった。

調査方法は、面接者が対象者から面接日の前日の生活時間を聴取して、調査票に記入する方法をとつた。

この調査結果は、1～2月の平常日における、製造業に従事する主婦の生活時間を示すものである。

調査の結果を集計する際に用いた生活時間の分類方法は、次表のとおりである。

生活時間分類法



1 1日の生活時間

製造業に従事する妻の1日の生活時間構造は、生理的生活時間が10時間43分(45%)、収入生活時間が6時間12分(26%)、家事的生活時間が5時間21分(22%)、社会的、文化的生活時間が1時間44分(7%)となつている。

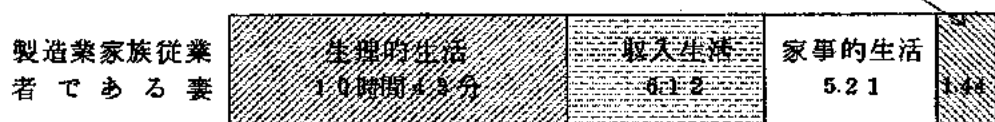
(第9図)

ちなみに労働省婦人少年が42年に実施した“農家婦人の労働生活に関する意識調査”中の生活時間調査(以下農家婦人調査という)と比較すると、生理的生活時間(10時間22分)と社会的、文化的生活時間(1時間48分)はほぼ同じであるが、収入生活時間は、製造業に従事している妻の方が、農家婦人(7時間25分)より1時間13分短く、家事的生活時間は56分長くなつている。

また、NHKが40年に実施した“国民生活時間調査”(以下NHK調査という)の家事を主とする家庭婦人の生活時間と比較してみると、家事的生活時間は製造業に従事している妻の方が家庭婦人より1時間23分短い。

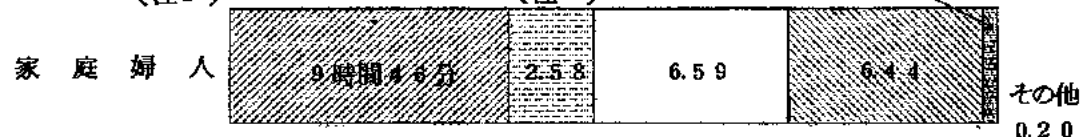
第9図 1日の生活時間

社会的・文化
文化的生活



(注1)

(注2)



注1) 2つの生活行動が同時に行なわれた場合、2つの行動が行なわれたものとして取り扱つたために24時間をこえる。

注2) 収入生活は商売、農作業、内職、アルバイト等である。

資料出所 労働省 農家婦人の労働生活に関する意識調査(42年)

NHK 国民生活時間調査(40年)

2 生理的生活時間

(1) 生理的生活時間の構成

生理的生活時間（10時間43分）の内容をみると、睡眠時間が7時間33分（70.4%）で、大部分を占めている。農家婦人調査では7時間5分となつていて、製造業に従事している妻の方が28分長い。

しかし、NHK調査の家庭婦人の睡眠時間をみると7時間42分であり、製造業の妻の方が9分短い。

食事時間は、朝、昼、夕食を合せて1時間38分で1回の食事時間は約30分となる。これは農家婦人調査とほぼ同じである。休息時間は41分で農家婦人調査（61分）より20分短い。（第38表）

第38表 生理的生活時間

総 数	すいみん	休 息	食 事	身じたく 身のまわり	医 療	そ の 他
時間 分 10 43	時間 分 7 33	分 41	時間 分 1 38	分 48	分 3	—
% 100.0	% 70.4	% 6.4	% 15.2	% 7.5	% 0.5	—

(2) 起床時刻と就床時刻

起床時刻についてみると、平均起床時刻は6時20分で、7時前に全対象者の約70%が起床している。農家婦人調査では、調査時期が7月と夏季であつたこともあり、午前4時57分と非常に早い。

第39表 起 床 時 刻

総 数		5時前	5:00 ～ 5:30前	5:30 ～ 6:00前	6:00 ～ 6:30前	6:30 ～ 7:00前	7:00 ～ 7:30前	7:30 ～ 8:00前	8時 以 降	平均起床 時 刻
実 数	%									時 分
152	100.0	5.9	3.3	6.6	23.0	28.9	24.4	5.3	2.6	6 20

次に就床時刻についてみると、平均就床時刻は10時50分になつている。農家婦人調査（10時5分）と比べると、製造業の妻の方が45分おそい。10時30分以降就床するものが大部分で、全体の75%あり、12時以降のものも15%みられる。夜間に帳簿整理等をする例も2割強ある。夜間働く平均時間は1時間

46分である。

第40表 就 床 時 刻

総 数		9 時前	9:00 ~	9:30 ~	10:00 ~	10:30 ~	11:00 ~	11:30 ~	12 時	平均就床時刻
実 数	%		9:30 前	10:00 前	10:30 前	11:00 前	11:30 前	12:00 前	以 降	
152	100.0	3.3	3.3	4.6	14.4	15.8	31.6	12.5	14.5	10時50分

3 収入生活時間

収入生活時間は8時間以上10時間未満のものが一番多く(22%)、6時間以上8時間未満のものが20%でこれに次ぐ。1日2時間未満のものも11%いるが、一方10時間以上働くものが14%と比較的に多い。全対象者の収入生活時間の平均は6時間12分になっている。(41表)

第41表 収 入 生 活 時 間

総 数		2 時間	2	4	6	8	10時間	平均時間
実 数	%	未 満	~ 4	~ 6	~ 8	~ 10	以 上	
152	100.0	10.5	15.2	18.4	20.4	21.7	13.8	6時間12分

4 家事的生活時間

家事的生活時間の平均は5時間21分である。その内容をみると、家事作業の時間が全体の約90%(4時間37分)を占め、残りの10%(44分)が育児・教育にあてられている。

家事作業時間の内訳は炊事の準備・片づけが2時間33分で最も多く、これは農家婦人調査(2時間11分)より22分長い。次に洗濯・掃除の1時間2分となっている。農家婦人調査では、これは57分である。(第42表)

第 4 2 表 家 事 的 生 活 時 間

総 数	家 事 作 業							育 児 ・ 教 育			
	小 計	炊事の 準 備 片づけ	裁縫・ 編物・ つくろい	洗 濯 掃 除	買 物	整 理 整とん	その他	小 計	授 乳	子供の 相手・ 世 話	その他
時間分 5 21	時間分 4 37	時間分 2 33	分 1 4	時間分 1 2	分 2 8	分 9	分 1 1	分 4 4	分 7	分 3 6	分 1
100.0	8 6.3	4 7.7	4.4	1 9.3	8.7	2.8	3.4	1 3.7	2.2	1 1.2	0.3

5 社会的文化的生活時間

社会的文化的生活時間の全対象者平均は1時間44分となつている。その内容をみると、教養・娯楽時間が1時間16分（73.1%）、交際時間が18分（17.3%）、雑談8分（7.7%）などとなつている。

教養・娯楽時間の内容としては“テレビ”が圧倒的に多く1時間3分となつていて、他のものにはほとんど時間をさいていない。

交際時間としては、“来客”が多く8分となつている。これは農家婦人調査では、教養・娯楽時間は1時間19分、うちテレビ1時間5分、交際時間は16分（うち来客10分）で、本調査とはほぼ同じである。（第43表）

第 4 3 表 社会的文化的生活時間

総 数	教 養 娯 楽						交 際				雑 談	その他
	小 計	新 聞	テレビ	自分で する娯 楽趣味	会 合 講習会	その他	小 計	訪 問	来 訪	その他		
時間分 1 44	時間分 1 16	分 3	時間分 1 3	分 4	分 5	分 1	分 1 8	分 4	分 8	分 6	分 8	分 2
100.0	7 3.1	2.9	6 0.6	3.8	4.8	1.0	1 7.3	3.8	7.7	5.8	7.7	1.9

付 録

製造業女子家族従業者の生活実態に関する調査票
昭和45年

婦人少年室名	原番号	サンプル番号	調査員氏名
--------	-----	--------	-------

(記入上の注意)

※印欄は記入しないで下さい。回答は該当する番号または符号を○で囲むか、またはあてはまる答えを記入してください。

問1 事業所の状況についておたずねします。

なおⅡの雇用者の()内には住込み従業員数を内数として記入

Ⅰ 業 種	1. 食料品製造業	2. 繊維工業			
	3. 木材、木製品製造業	4. 家具、装飾品製造業			
	5. パルプ、紙、紙加工品製造業	6. 出版、印刷、関係産業			
	7. 窯業、土石製品製造業	8. 金属製品製造業			
	9. その他				
Ⅱ 雇用者 の 数	男女別 地位別	男	女	計	
	事業主	1			
	家族従業者				
	雇用者	()	()	()	
	計				

問2 あなたの家族についておたずねします。同居の親族も含めて答えてください。

昭和45年1月1日現在で生活の本拠がその家にある人に
してたずねる。

Ⅰ 家族 人数	Ⅱ 本人との続柄	Ⅲ 性別	Ⅳ 年齢	Ⅴ 職業	Ⅵ 世帯
1 本人	男	○			基本世帯 複合世帯
2 夫	女				
3 妻	男				
4 子	女				
5 父	男				
6 母	女				
7 兄弟	男				
8 姉妹	女				
9 祖父母	男				
10 孫	女				

(注) 家事担当者1人に限らない。たまたに手伝う程度の人は含まない。

問3 あなたの部自身のことについておたずねします。

Ⅰ 最終学歴	1. 小学、高小、新制中卒	2. 旧高女、新制高卒	3. 旧専、短大卒以上
Ⅱ 現在の職業以外の職業(別表) (M A)	1. 農林水産業(雇用、家族を問わない) 2. 非農林水産業 3. 職業なし		
Ⅲ 現在の家族就業状況	1. 1年未満		
Ⅳ 現在の家族就業状況	2. 1年以上～5年未満		
Ⅴ 現在の家族就業状況	3. 5年以上～10年未満		
Ⅵ 現在の家族就業状況	4. 10年以上		
Ⅶ 現在の家族就業状況	1. ノロパン		
Ⅷ 現在の家族就業状況	2. 簿記		
Ⅸ 現在の家族就業状況	3. タイプ		
Ⅹ 現在の家族就業状況	4. 自動車運転免許		
Ⅺ 現在の家族就業状況	5. その他()		
Ⅻ 現在の家族就業状況	6. 無職		

問4 事業所であなたの就労状況についておたずねします。

(1) 毎日事業所で働いて
いますか?

1	毎日雇用者のみ
2	毎日臨時
3	不定期

(2) 事業所で実際に働く時間
は1日何時間くらいです
か?

(不定期に働いている
人場合は働く日た
けの平均)

時 間

問5 あなたにはきめられた
休日がありますか?

1	休日なし
2	週に1回はない(隔週1回など)
3	週1回
4	週1回以上
5	きまつていない

(答が2と4の人に)

その休日にはあなたも
完全に事業所の仕事を休
みますか?

1	完全に休み
2	大体休み
3	ほとんど休まない
4	全然休まない

問6 あなたは事業所でどん
な仕事をしていますか?
その仕事をあなたは主に
やっているのですか。そ
れとも補助的にやつてい
るのですか?

(該当の欄に○印)
(M A)

項 目	主 地
1 労務管理	
2 金銭資金くり	
3 経理、一般事務	
4 仕入・販売	
5 生産(製造)	
6 雑用(お茶くみ、職場 掃除、まかない等)	
7 その他()	

問7 あなたは勤めた報酬を
多少にかかわらずもらつ
ていますか?

(振替の上だけでなく
実際にもらっている
かどうかを聞く)

1	毎月きまつた額をもらう (1月当り)	()円
2	不定期にもらう (1月平均)	()円
3	全然もらわない	
4	その他	

問8 〔前問の答が1と2の人に〕

あなたの報酬ほどの
程度自分自身のことにつ
かえますか？

1	全部つかえる
2	大部分つかえる
3	半分はつかえる
4	少ししかつかえない
5	全然つかえない

問9 3年前と比べてあ
なたの家族の仕事の状
態は如何ですか？仕事
の内容と働く時間と休
日について答えて下さ
い。

仕事の内容	1	楽になつた
	2	辛くなつた
	3	変わらない
	4	3年前には仕事に従事していなかつた
働く時間	1	短くなつた
	2	長くなつた
	3	変わらない
	4	3年前には仕事に従事していなかつた
休日（家族に休み日）	1	増えた
	2	減つた
	3	変わらない
	4	3年前には仕事に従事していなかつた

問10 あなたが家族に従
事なさっている理由は
何ですか？

〔MA〕

1	求人難で従業員が得られないから
2	人件費の節約になるから
3	働くのが当然だから
4	収入がほしいから
5	働くのが好きだから
6	その他（ ）

問11 住居と事業所は分
かれていますか？

1	同じ建物内にある
2	同じ敷地内に分かれてある
3	全く別の場所にある
4	その他（ ）

問12 ① 家事、育児に
あてる時間は1
日に何時間くら
いですか？

時間	分
----	---

② 家事、育児に
もつと時間がほ
しいと思います
か、それとも今
の状態で十分で
すか？

1	もつと時間がほしい
2	今のままで十分
3	その他（ ）

問13 家事や仕事をほ
れて、あなたが自由に
使える時間（休息する、
テレビを見る、自分の
好きなことをする時間
など）は1日に何時間
くらいありますか？

〔答が1の人に〕
その自由な時間は主
に何をして過ごします
か？ 〔MA〕

1	ある（ 時間 分 ）
2	自由時間はない

1	テレビ
2	雑談
3	新聞・読書
4	休息
5	趣味・娯楽・スポーツ
6	その他（ ）

問14 現在、あなたは健
康ですか？

1	健康
2	あまり健康でない
3	病気になる

問15 この1年間に、仕
事中にけがをしたり、
仕事が原因で病気をし
たことがありますか。
また家族の用事で外出
したとき、交通事故に
あつたことがあります
か？

〔答が1の人に〕
そのために家族の仕
事を何日位休みまし
たか？

1	ある→ 〔MA〕	イ 職場でのけが
		ロ 仕事からくる病気
2	ない	ハ 交通事故
		ニ その他（ ）

1	1日～3日
2	4日～7日
3	8日以上
4	1日も休まない

問16 ひどく疲れた時や
気分が悪いときにゆつ
くり休めますか？

〔答が3の人に〕
何故休めないのです
か？

〔MA〕

1	ゆつくり休める
2	大体休める
3	休めない

1	家族が忙しい
2	家族に気がねする
3	子供の世話や家事をする人がい ない
4	家がせまい
5	順音がする
6	その他（ ）

〔学令前の子供のある人に〕

問17 一番近いお産の時、
その前後に家族を休み
ましたか？ 休んだと
したら産前と産後に何
日くらい仕事を休みま
したか？

産前	1	休んだ（ ）日
	2	休まなかつた
	3	当時は家族に従事していな かつた
産後	1	休んだ（ ）日
	2	休まなかつた
	3	当時は家族に従事していな かつた

問18 あなたはお宅の今の事業を今後も続けた方がよいと思いますか？ それともやめた方がよいと思いますか？

〔答が2の人に〕

やめた理由は何か？

- | | |
|---|---------|
| 1 | 続けた方がよい |
| 2 | やめた方がよい |
| 3 | わからない |

- | | |
|---|----------------|
| 1 | 経営が不振である |
| 2 | 将来の見通しがない |
| 3 | 労働力確保の見通しがつかない |
| 4 | 事業の后继者がいない |
| 5 | その他() |

〔前問の答が1(続けた方がよい)の人に〕

問19 あなた自身は今現在の事業の仕事にこれからはずっと従事したいと思えますか、それともやめられるものならやめたいと思えますか？

〔答が2と3の人に〕

やめたい理由は何か？

〔MA〕

- | | |
|---|----------|
| 1 | ずっと従事したい |
| 2 | できればやめたい |
| 3 | ぜひやめたい |

- | | |
|---|----------------|
| 1 | 家事時間が十分でない |
| 2 | 子供の世話、しつけができない |
| 3 | 過労で健康にわるい |
| 4 | 自由時間がない |
| 5 | 他所に働きに出たい |
| | (希望する仕事の内容記入) |
| 6 | その他() |

問20 主婦をはじめ家族が事業に従事することについて改めたいことがありますか？

〔答が1の人に〕

改めたいことはどんなことですか？

〔MA〕

- | | |
|---|-------|
| 1 | ある |
| 2 | ない |
| 3 | わからない |

- | | |
|---|-----------------|
| 1 | 労働時間が長い |
| 2 | 報酬がない、または少ない |
| 3 | 休日がない、または少ない |
| 4 | 事業と家庭生活が分離していない |
| 5 | その他 |

問21 ① 婦人団体や業者団体など、また趣味や勉強のグループに入っていますか？

〔入っている団体には①の欄に○印をつける〕

〔MA〕

② その団体やグループのことで外出することがありますか？

〔外出の程度については④の該当欄に○印をつける〕

	① 加入 状況	②外出状況		
		イ た び た び ある	ロ た ま に ある	ハ 全 然 な い
営 業 団 体				
P. I. A.				
町 内 会				
婦 人 団 体				
趣味や勉強のグループ				
社会福祉のグループ				
その他()				
何も入っていない				

〔対象者の一部のみ実施〕

問22 あなたの生活時間についておたずねします。あなたの昨日の1日の生活時間を朝起きた時から夜ねるまで思い出しておつしやつて下さい。また前日が休業のない日だったり、半日だったりした場合は、最も近い平日について答えてください。

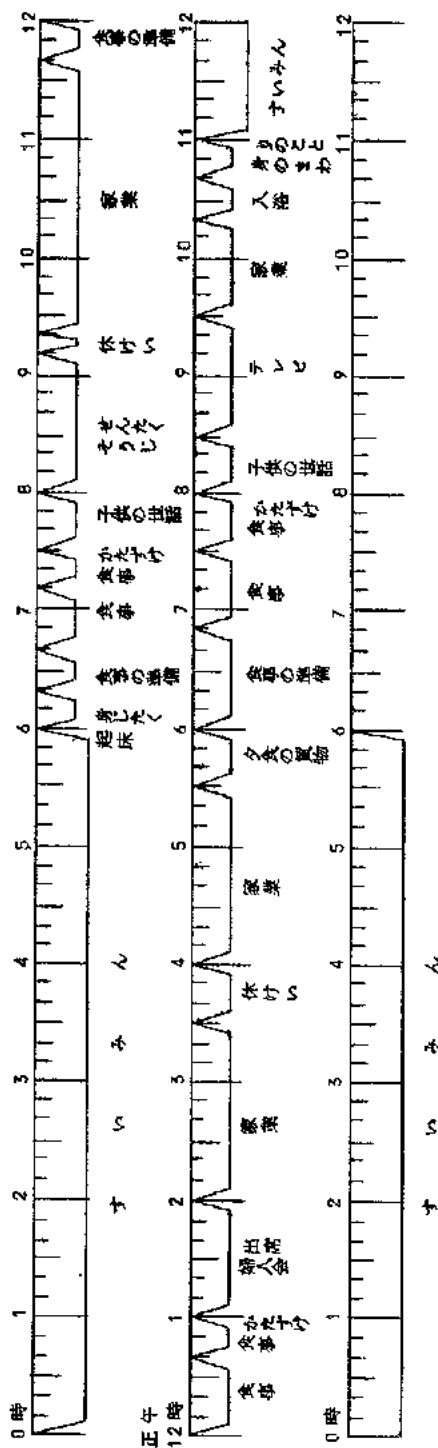
〔別紙生活時間表に、事例の形式にそつて記入〕

(別表)

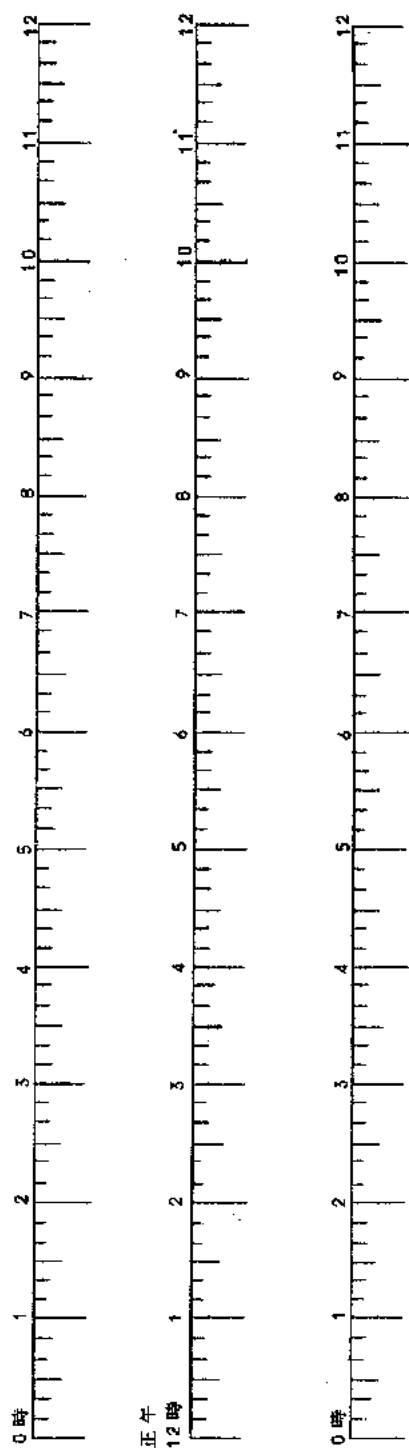
生活時間調査表

労働省婦人少年局 昭和45年

婦人少年室名	県番号	サンアル番号	調査員名	記入年月日	昭和45年 月 日	曜日
--------	-----	--------	------	-------	-----------	----



(記入例)



(対象者)

〔参 考〕

製 造 業 分 類 表

(但し、製造業女子家族従業者の生活実態に関する調査票問1の産業欄に記載した8業種に限る)

1 食料品製造業	肉製品・乳製品製造業、水産食料品製造業、野菜かん詰・果実かん詰・農産保存食料品製造業、調味料製造業、精穀・製粉業、砂糖製造業、パン・菓子製造業、飲料製造業、その他の食料品製造業
2 繊維工業	製糸業、紡績業、ねん糸製造業、織物業、メリヤス製造業、染色整理業、網網製造業、繊維雑品製造業、その他の繊維工業 外衣製造業(和式を除く)、下着製造業(和式を除く)、帽子製造業、毛皮製品製造業、その他の衣服・繊維製品品のまわり品製造業(和式を含む)、その他の繊維製品製造業
3 木材、木製品製造業(家具を除く)	製材・木製品製造業、造作材合板建築用組立材料製造業、木製容器製造業、木製履物製造業、その他の木製品製造業
4 家具・装備品製造業	家具製造業、宗教用具製造業、建具製造業、その他の家具・装備品製造業
5 パルプ・紙・紙加工品製造業	パルプ製造業、紙製造業、加工紙製造業、紙製品製造業、紙製容器製造業、その他のパルプ・紙・紙加工品製造業
6 出版・印刷・同関連産業	新聞業、出版業、印刷業 製本・印刷物加工業 印刷業に伴うサービス業
7 窯業・土石製品製造業	ガラス製造業、セメント製造業、建設用粘土製品製造業(陶磁器製を除く)、陶磁器・同関連製品製造業、耐火物製造業(粘土製のもの)、炭素・黒鉛製品製造業、研ま材製造業、コンクリート・石こう・石灰製造業、その他の窯業・土石製品製造業
8 金属製品製造業	ブリキかんその他のめつき板製品製造業、洋食器・刀物・手工具・一般金物製造業 暖房装置・配管工事用付属品製造業、構築用金属製品製造業、金属打抜・被覆・彫刻業(ホロー鉄器を除く)、線材製品製造業(ねじ類を除く)、ボルト・ナット・リベット・小ねじ木ねじ等製造業、その他の金属製品製造業
9 その他	化学工業、石油製品・石炭製品製造業、ゴム製品製造業、皮革・同製品製造業、鉄鋼業、非鉄金属製造業、機械製造業、電気機械器具製造業、輸送用機械器具製造業、計量器・測定器・測量機械・医療機械・理化学機械・光学機械・時計製造業、武器製造業、その他の製造業

製造業女子家族従業者の生活実態に
関する調査

昭和45年8月25日 印刷

昭和45年9月 1日 発行

発行者 労働省婦人少年局

東京都千代田区大手町1-3-1

印刷者 有限会社 研文社

東京都新宿区四谷3-6

電話(353)8358, (351)0046